

AC PAPER

エー・シー・ペーパー

ISSUE
03



www.a-crafts.co.jp

特集

workspace
ニャから

workspace
これから

HAPPYなオルタナティブをあなたに

AC PAPER

CONTENTS

特集 workspaceのこれから

- ・CASE 01 ロケーションよりタイミング ——— 02
- ・CASE 02 古民家で未来を考える ——— 06
- ・CASE 03 シェアから生まれる+α ——— 09

ニッポンの住 vol.24

逢いにゆきたいオフィス ——— 15

沖縄通信 Banana concept inc. ——— 17

働き方が多様になり、在宅勤務も増えつつある世の中。とはいえ、多くの働く人にとって一日の中でいちばん長い時間を過ごすであろうワークスペース*。

働く時間を居心地よく過ごせる。仕事場への行き帰りが楽しくなる。働く場所で新しい人との出会いがある。

そんなワークスペースってどんなだろう？

今号では個性的なワークスペースを3カ所ご紹介。重い腰を上げて引越したくなるかもしれません。

さ、みなさんもっとゴキゲンに働きましょうよ。

*オフィスの他、アトリエや工房を含む仕事場全般の意

CASE 01 ロケーションよりタイミング

大阪メトロ中央線「緑橋」駅から徒歩8分、今里筋線「今里」駅から徒歩9分。市内中心部を離れた場所にあるテナントビル。正直、あえてこの場所でオフィスを探す人は少ないエリア。しかし今、リノベーションで生まれ変わったこのビルに、個性的なテナントが続々と集まっています。何か特別な理由があるのでしょうか。2組の入居者を訪ねてみました。

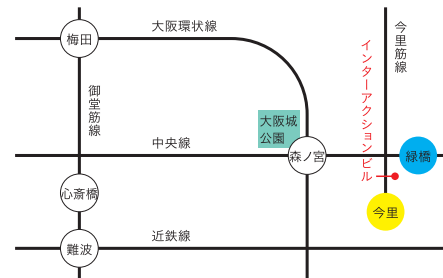
理想の場所に出会ってしまった



アメリカ人の両親を持つ大阪生まれ大阪育ちの抽象画アーティスト。双子の姉(@mami)さんはフォトグラファー。

「本当は今年1年かけて日本中を旅するつもりだったんです。だからWEBサイトでこの物件を見つけた時も、『中を見たら絶対好きになっちゃう、どうしよう』と思っていたんですけど、見たらやっぱり好きになっちゃいました(笑)。

制作拠点はずっと欲しいと思っていたので、スタジオを探していた姉と2人で借りることに



インターアクションビル。2018年冬にリノベーション。大阪R不動産で入居者募集を行っています。60㎡超の区画を10万以下で借りられるのは嬉しい！



天井が高くシンプルな内装にカラフルな絵がよく映えます

しました。シェアしても十分使える広さがあったのも決め手でした。」

「小さい時にこの辺りに住んでいたの、そこにも縁を感じてしまって。

現在は生駒に住んでいるので、緑橋駅から電車1本で帰れるのも便利です。近くに24時間営業のフィットネスがあるのも良い！作業の前に運動したりして(笑)。」

「昔から誕生日パーティーとか、人が集まる場所や人をもてなすことが好きだったんです。でも、今は山の上にある自宅で作業しているので、人を呼びにくくて…。



お隣の坂下さんのスタジオでインタビューさせてもらいました

この場所があれば、気軽に絵を見にきてもらえるし、それも楽しみです。」

「アーティスト同士のコミュニティは東京に多いような気がしていて、大阪にもアーティストはたくさんいるのに上手く繋がっていない印象があります。

だから自分の制作活動の拠点にするだけでなく、そういうコミュニティ作りもこの場所できたら良いな、って。海外から遊びにきたアーティストにも来てもらいたい！

ただ来てゆっくりできるスペースがあるっていうだけでも魅力的だと思うんです。」

坂下大太郎さん

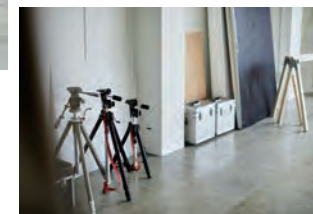
大阪在住「アーティストのコミュニティ」を「写真屋じょうちゃん」としても活動中。

<https://o-chan.jp/occhan.com>



「ここに来る前は、谷町六丁目にある知り合いのミュージシャンのスタジオを1年ほど間借りしていました。ロケや他のスタジオでの撮影も多いのでそんなに不便はなかったんですけど、気を遣うこともあって。ありがたいことに昨年頃から仕事が増えてきたこともあって、自分の拠点を構えようと思いここを借りました。倉庫化していた自宅もようやく片付けられました(笑)。」

「このスペースは光の回り方が独特で、あんまり明るすぎないところも自分の好きな写真のテイストに合うなと思ったんです。デザインされすぎているシンプルな内装も気に入りました。」



撮影用の機材を置いても広々使えるスペース

商店街が好きなんです

「特に場所にはこだわらず探してましたが、結果的に自宅のある関目からも来やすいというのも良かったですね。毎日自転車です通っています。

昔から商店街が好きなんですけど、ここは今里商店街が近くて嬉しいです。さっそくお気に入りの食堂も見つけました。おっちゃんが作ってくれる親子丼が美味しいんです(笑)。大阪の中心部から少し距離はありますが、離れすぎてもなくていい塩梅だと思ってます。祖母が大阪の商店街で商売していたのもあって、自分の



スタジオの一角。西からの光が柔らかく差し込む。センス良く飾られた植物やBGMと相まって、つい長居してしまいたいような居心地の良い空間。これからダイニングテーブルが加わるそう。



別階にある共用のミーティングスペース。入居者は自由に使える。 撮影：増田好郎

原風景なのかもしれません。下町感のある場所が好きなんですよね。

この物件に出会えたのも、縁やタイミングが重なったこと。自分の拠点を持てたのでこれからはどっしり構えつつ、マイペースに仕事していきたいですね。」

お二人とも共通していたのは、そもそも初めから中心部で探してはいなかったということ。その街と物件に個性があれば、いわゆる都心じゃなくても良いじゃない。むしろ下町なくらいが温かみがあって良いかも。オフィスビルの可能性を感じました。

CASE 02 古民家で未来を考える

大丸松坂屋百貨店の一部署である、未来定番研究所。「5年先の暮らしを探り、世の中に必要とされ定番となるモノやコトを提供していくこと」を目的に2017年に発足されたチームです。その事業内容を聞くだけでも面白そうなお仕事ですが、とにかくオフィスが特徴的。東京の東エリア・谷中にある立派な日本家屋なのです。



村田俊介さん
大丸松坂屋百貨店 MD 戦略推進室
兼 未来定番研究所 研究員

「未来定番研究所が発足した当初から、この部署のオフィスは本社から独立させる予定でした。じゃあ場所をどうするか。未来を考えるって言うからには戦後になって急拡大した西東京(新宿・渋谷・六本木等)ではないよね、と。



なので江戸時代からの歴史があり、かつ近年注目されているエリアでもある東京の東の方で探していました。」

「**×**ンパーの中に昔から谷中が好きで住んでいる人間がいて、地域との繋がりもあったんですね。そこで、谷中で『NPO法人たいとう歴史都市研究会』のメンバーとして活動されている椎原さんをお願いし、物件をいくつか紹介いただきました。

そうして出会ったのが、“銅菊”と呼ばれる銅細工職人さんのお家だったこの古民家なんです。できるだけオリジナルの状態を活かすような形で改修していただきました。」

「椎原さんに紹介していたおかげで、オフィスができてからも地域の人に受け入れてもらえているので、すごくありがたいですね。

庭のお手入れも地元の庭師さんに入ってもらっていますし、イベント時のケータリングも地元の飲食店にお願いしています。観光客の方が多いエリアなので、写真を撮っている方がいたら中をご案内したり、土日はイベントの展示場所としてお貸ししたり、できるだけ地域に開かれた場所でありたいと思っています」



1階の土間には作業場に置かれていた道具類が残されています。



2階の執務スペース。床暖房を入れても冬は寒いそう…！ 日本家屋の宿命ですね。

地域との関係

「**一**の場所に移って一番良かった点は、社外の方と打ち合わせをするときに、『持続可能な小売業の未来のあり方を本気で考えているんですよ』、という姿勢が伝わりやすくなったということ。あとは家のような空気感からか、ビジネス感の強すぎない会話が生まれやすいということも思わぬメリットですね。『こういうこと面白いからやってみたいよね』っていう感じで動いていくプロジェクトも増えたような気がします。」

「未来定番研究所のメンバーは6名なのですが、それぞれが結構違う動きをしています。F.I.NというWEBメディアの運営をメインにしている人や、イベントの企画を主に担当する人など。

僕は百貨店の場所自体がもっとメディアとしての意味を持てるんじゃないか、とか

金太郎飴的な商売ではなくそれぞれの地域の店舗が特色を出せたら面白いな、とかそんなことを日々考えながらプロジェクトを動かしています。」



座布団に座ってミーティング。なかなか見えない光景です。

ワークスペースをどこに構えるか。どんな建物で、どんな空間にするか。それは企業や個人のビジョンを効果的に体现するツールにもなるのです。

場所の持つ力

CASE 03 シェアから生まれる+α

2018年3月、神戸・北野坂の途中に誕生したシェアオフィス「KITANOMAD」。ヴィンテージマンションをリノベーションして生まれた空間には、グローサリーやカフェ、ヨガスタジオまでが入居しています。単なる“仕事場”にとどまらないオフィス「KITANOMAD」について、代表の小泉さんと、実際の入居者2人にお話を伺いました。

オフィスの役割も変わっていく



北野の坂を登る途中に現れるKITANOMAD。

神戸R不動産で入居者募集を行っています。



KITANOMAD 代表 小泉寛明さん

1973年兵庫県生まれ。2010年有限会社 Lusie 設立、神戸にて「自転車10分圏内のエリアディベロプメント」を志向し、各種事業に携わる。神戸R不動産運営。一社社団法人KOBEL FARMERS MARKET代表理事。

「アメリカにいた2000年代半ば頃、オフィスのあり方が変わっていくのを目の当たりにしました。それまでは、役員クラスの社員も平社員も皆デスクを持ってフロアに場所を取っていた。最初は固定席だったのが、次第に社員の席を窓際の居住性の良い位置へ移動し（役員はフロアの中心部へ）、さらにはフリーアドレス（固定席を持たない形式）に移行していったことで、フロアの面積が小さくても良くなりました。結果、大企業がオフィスの場所をよりアクセスの良い立地へと移す流れが生まれたんです。」

「そういった動きの背景には、“オフィス＝仕事をする場所”から、“オフィス＝社員が顔を合わせる場所”へと役割がシフトしていったことが考えられます。テレワークなどの普及で、オフィスに長時間いる必要がなくなったんですね。それは企業でなくても同じ。ワークスペースには人が集まる場所としての付加価値が求められるようになりました。」



開放的なメンバーズエリアのCOMMONスペース。入居者が思い思いに過ごします。

絵本画家・植田真さんが手掛けた壁画が部屋のアクセントです。

撮影：片岡杏子

『KITANOMAD』も、そういった流れの中からニーズが高まって生まれた場所です。北野という土地柄、外からの移住者が多いところなので、ここが彼らにとってのコミュニケーションスペース、学びの場となっています。将来的にはここから地域との接点生まれ、若い人の雇用が生まれるなど良い循環を作り出せたらいいなと思っています。現に、当初の入居者が独立し、ここの近くにオフィスを構えたりもしているので、そういった流れが活発になれば嬉しいですね。」

大好きな神戸で健康的な生活

「数年前まで東京で社員たちと仕事をしていましたが、神戸が好きなあまり単身で戻ってきました(笑)。『KITANOMAD』に決めたきっかけはいくつかあるのですが、やはり雰囲気の良さが大きかったです。あと、健康志向なのでファームスタンドにも心惹かれました。」

「一人で作業する仕事なので、自宅で仕事していた頃は思っていた以上に引きこもりがちになってしまい…。生活も不規則になっていたのですが、ここへ来てからは毎日決まった時間に通勤・退勤する習慣がついて、生活リズムが整いました。」

「シェアオフィスに入居するのは初めてで、まだ入って1ヶ月ほどなのですが、早くもとても気に入っています。生活リズムが整い、仕事効率が良くなっただけでなく、様々な人の話を聞けるのが最大のメリットかな。他業種のクリエイターの話は刺激を与えてくれるので、仕事にも良い影響が出そうです。これからの『KITANOMAD』での生活も楽しみです。」



デスク周りはそれぞれの好みに合わせて
カスタマイズ。個性的な雑貨もちらほら…。



studio spoon. 代表 中村明史さん
web 制作会社スタジオスプーン代表。
東京にもオフィスを構える。

余白が生まれる。アイデアも生まれる

「今まで東京や海外への移住を繰り返していたのですが、昔から住みやすさを感じていた神戸に戻ることを決めたタイミングで、『KITANOMAD』の存在を知りました。仕事の量に応じて、平日／休日問わずここで作業しています。メンバーの中では一番長い時間いるんじゃないでしょうか(笑)。それでも、家が近いぶん家族と過ごす時間は増えました。」

「ここにいるといろんな人と話す中で、新鮮な感覚が自分の中に入ってくるのを感じます。思考がリセットされる感じは会社員時代にはなかったものですね。また、散歩を日課にしています。周辺は緑が多くて良い気分転換になるんですよ。散歩だとか、人との会話だとか、そういった余白のような時間が積み重なって仕事にも良い影響を及ぼしている感じはします。」

「自分のような、イベントに巻き込まれるのが好きな人に向いている環境だと思います。ここに来てからの唯一の悩みは、老後に神戸に移住する楽しみがなくなったこと(笑)。それくらい、『KITANOMAD』が気に入っています。」



日当たりのいいオフィスでは、柔らかな空気から
自然と会話も生まれます。ついつい話すぎて
しまうこともあったり。

撮影：片岡杏子



ON BOARD 代表 伊藤宏さん
建築CGビジュアライザー。東京、海外での勤務経験を経て独立。

KITANOMADから少し歩くと、
こんな見晴らしのいいエリアも。
三宮の街を一望できます。

家で仕事できるなんてサイコー♪ そう思っていた。週に何日かの在宅勤務を始めてもう7年が過ぎた。数年前からは会社全体にも採り入れた。概ね好評だ。自分の場合、大阪と沖縄の二拠点で生活しているが、特に沖縄で借りた海が見えるアパートの窓辺の席、そこがお気に入りの在宅ワークの場所になっている。たとえば30分の通勤でも往復で毎日1時間のロス。在宅勤務なら家事を途中で挟むこともでき効率も上がる。

だが、つまらない。そう、在宅勤務の日が増えれば増えるほど、つまらなくなってきたのだ。在宅は効率がいいので、なるべく会社や現場に行く日をまとめるようになる。職場の他のメンバーや取引先にも在宅ワーカーが増えてきたので、じゃ互いに家からTV会議にしましょうかと、どんど

ん在宅の日が増えてゆく。そして体重まで増える。ちょっとした引きこもり状態に陥るのだ。

ひとり住まいの人は更にヤバい。TV会議で声は出すものの、誰かとリアルには話していない。気がつけば面と向かって話したのは、コンビニ店員へ言ったありがとうだけ。そんな日もある。どこかバーチャルであり、ときどき夢の中で生きているような感覚になる。確かに在宅勤務は、仕事の効率化は進むが、それによって生まれた余剰時間を、果たして人々は何に使うとしているのだろう。

さて、今号の特集を「workspaceのこれから」としたのは、今後テレワークの普及で在宅勤務をする人が増え、他人事だと思っていた貴方も数年後には週4が在宅で、オフィス

に行くのは週に1、2度になるかもしれないからだ。技術の進歩で、自宅に居ながらまるでオフィスでみんなと働いているかのようなネット上のバーチャル空間ができるかもしれないし、仮想オフィスに自分のアバターを出動させ働くようになるかもしれない。

技術革新だけでなく、温暖化防止やテロ対策を目的に通勤が抑制され、思ってた以上に早くオフィスビルが過去の遺物になる可能性もある。自動車は、2030年代に完全自動運転が実現すると言われている。機械同士が運転する方が安全なので、おそらく人間は運転禁止になるだろう。自分でクルマを走らせる喜び、Fun to Driveなんて広告が過去のノスタルジアになる。同様に、みんなが集まってオフィスで働くこと、そしてあの通勤電車さえ、懐かしく思え

る時が来るかも。

だとすれば、今のうちにオフィスをもっと楽しまなきゃ。そう思うのです。タイルカーペットに蛍光灯の空間なんてサヨナラ。もっとHappyな職場にしましょうよ。じゃないとみんなが在宅で仕事してしまいます。

経営者がオフィスづくりを頑張るなら今、いまなんです。これからは、わざわざ行きたいと思うオフィスを作らなきゃ、存在する意義がないのです。

じゃ、どうすればいいの。ネット上にはない資料や書籍が会社に行けばある。腰痛知らずの座り心地がいい椅子。自宅では困難だった資料サンプルが作れる最新の機器類が充実。美味しい珈琲豆とマシンも重要です。もちろん内装のデザインも。そして、一番大事な

ことに気づいてしまいました。人だ。会社に嫌なヤツがいると行く気しませんもんね。果たして自分は、みんなが会いたいと思う人になり得ているのか？ 無愛想で不機嫌なヤツなんて職場では論外。「逢いにゆきたいオフィス」。これからのworkspaceにおけるキーワードはコレで決まりだ！



中谷ノボル なかたにのぼる
アートアンドクラフト代表。建築と不動産と旅が仕事のフィールド。
大阪沖縄を拠点にリノベーションとホテル運営をしています。
一級建築士。趣味は海で泳ぐこと。

Banana concept inc.

リノベーションに欠かせない、建築工事のプロフェッショナルたち。
今日はアートアンドクラフトが沖縄事務所でお世話になっている電気工事のスペシャリスト
「バナナコンセプト」さんをご紹介します。社名からして只者ではないオーラ全開の同社は、
果たしてどのようにして誕生し、どのような考えで日々仕事しているのか？

音楽が電気屋の始まりです

アートアンドクラフト (以降 A)：そもそも電気屋を始める
きっかけは何だったんですか？

バナナコンセプト (以降 B)：私 (仲宗根) と花城は20年来の
音楽仲間で、日々いい音を出すためのサウンドシステムを
試行錯誤していました。そして、突き詰めていくと
最後は「電源」だと気付いたんです。だったら自分がそこを
やろうと思い、電気のプロになりました。

A：社用車や自社オフィスへの想いを聞かせてください。

B：既存の工事屋さんたちとの違いを明確に示したかったので、
オフィスはこれまでの工事会社のイメージじゃない空間に
しました。地元の業者さんに対し、「決して競合するつもりは
ないですよ、僕たち全然違うルートで仕事探しますから



オフィスにはカフェと間違っ
て入ってくる人も



左から代表の仲宗根蔵さん、
真由美さん、花城さん

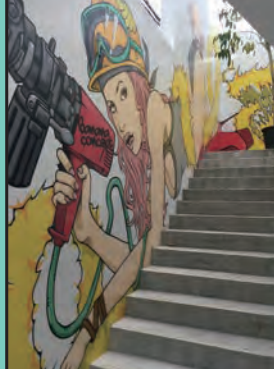
シ中

糸電
Okina wa

通

Tsushin
イ

Vol.1



ド派手ウォールアートは地元アトロン の作



これがオリジナルの
ライトコントロールスイッチだ！

バナナコンセプト株式会社
<http://banacon.com>

ご安心くださいね」というメッセージも込めました。また、
建築関係でない人にも気軽に訪れてほしいと思い、イベントが
できるテラスなどのスペースも作りました。社用車は、
道で見かけた人へ僕たちの世界観が伝わるようにしています。
それが仕事に結びつければ嬉しいですね。



センス良いカラーリングの社用車

アートアンドクラフトにとって、バナナコンセプトさんとの
出会いは「SPICEMOTEL」での工事が最初。電気と空調工事、
そして屋内外の照明計画もお願いしたのですが、なかでも
印象に残ったのが客室のライトコントロールスイッチ。素材、
パーツ、デザインに至るまで何度もやりとりして、完全オ
リジナルの部材ができあがりました。そして今では大阪の
工事現場でさえ、バナナさんに部材制作を発注して空輸し
てもらうほどの依存ぶりです。

HAPPYなオルタナティブをあなたに

AC PAPER

発行日：2019年5月10日

発行人：中谷ノボル アートアンドクラフト

編集：土中萌 吉田奈波

写真（表紙）：中村寛史

写真（P2-5, 9-14）：坂下丈太郎

デザイン：一野篤

印刷：有限会社 修美社

製本：大竹口紙工株式会社

制作・発行：株式会社アートアンドクラフト

550 0003 大阪市西区京町堀 1-13-24-1F

電話：06 6443 1350

営業時間：10:00-18:00 水日祝休

一級建築士事務所、宅地建物取引業、建設業、古物商許可

編集後記

ワークスペースはもっとHAPPYな場所になり得る！

そう確信した今号でした。実は5月にオープンする

A&C神戸事務所もKITANOMADに入居予定。

新しい場所にワクワクしてます。

神戸の皆様、よろしくお願ひします！

均質化されていない住まい

あたらしい都市居住のスタイル

Arts&Crafts

あらたな視点で再発見！

不動産のセレクトショップ

大阪R不動産

— REAL OSAKA ESTATE —

マンション暮らしの新基準

セレクト型リノベーション

TOLA

collaboration with pre-selected design system by Arts & Crafts

開放感あふれるデザインモーター

SPICE MOTEL